

【ポスター発表】

## 地域子育て支援拠点における母親を介した父親支援に関する考察

ープログラムを受講した母親への調査からー

○ 種智院大学 近棟健二 (会員番号 7006)

キーワード3つ: 子育て支援、父親支援、プログラム

## 1. 研究目的

子育て不安に関する様々な調査研究や児童虐待の実情から子育てにおける母親の負担の大きさがうかがえる。原因の一つとして父親の子育てへの関わりの不十分さが指摘されており、背景として労働時間の長時間化や性別役割意識などが考えられる。

一方で父親の子育てに関する最大の情報源は母親であるとする調査研究もあり、母親の父親への影響力は大きい。また、地域の子育て支援拠点には多くの母親が訪れており、母親へのアプローチは父親に比べてしやすい状況である。

そのような中、特定非営利活動法人新座子育てネットワークが中心となり父親の子育てへの関わりの重要性を母親が知り、父親の関わりを増やすように母親が行動することを目的とした母親対象のプログラム「パパの気持ちママの気持ち～ふたりの子育て再発見～」を開発した。

本研究では、プログラムを受講した母親への調査を通して、父親の子育てへの関わりにどのような変化があったのかを明らかにし、地域子育て支援拠点における父親への子育て支援を考察することを目的とする。

## 2. 研究の視点および方法

プログラム「パパの気持ちママの気持ち～ふたりの子育て再発見～」は、乳幼児を育てる母親を対象として、子育てひろば等の地域子育て拠点において母子同室で実施されている。およそ45分間のプログラムで研修を受けた実施者一名がフリップを使い、参加者に問いかけながら進行していく。内容は父親の子育て情報源、育児時間、ワークライフバランスへの意識などに関する10の問題と父親が子育てに関わる子どもへの影響や父親を取り巻く厳しい状況などに関する5つの解説についてである。プログラムの最後に「パパへの一言」を記入し、10の問題と5つの解説をまとめた資料とともに持ち帰ることで夫と話し合うきっかけとしている。

平成26年4月～27年6月に開催したプログラムの参加者を対象としてプログラム実施前、実施直後、実施三ヶ月後と三回のアンケート調査(実施三ヶ月後のみ郵送による調査)を行った。

本研究では参加者の属性に関する項目、父親の育児行動に関する項目、父親・母親の変化(自由記述)について尋ね、実施前後の変化を分析した。

### 3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会「研究倫理指針」に基づき、質問紙配布時に調査の趣旨と共に得られたデータは統計的に処理を行い、個人情報外部に漏れることはないという説明を添え協力を依頼した。

### 4. 研究結果

父親の育児行動について尋ねた 30 項目でプログラム実施前と実施三ヶ月後と比較して有意な差がみられた項目は 8 項目であり、すべての項目で実施率が上昇している。

「ミルクや食事を食べさせる」や「母が出かけるとき父子だけで留守番する」などともと実施率が高かった項目だけでなく、「トイレに連れていく」や「子育て支援センターやひろばを利用したことがある」など 3 割程度の実施率だった項目で 5 割を超えている。

30 項目のうちいくつかの項目を実施しているか（育児得点）を 14 項目以下は低得点群、15～20 項目は中得点群、21 項目以上は高得点群としてプログラム実施前と実施三ヶ月後と比較した。変化がみられたのは低得点群と中得点群でそれぞれ半数が一つ上の群に移動している。

また、子どもの数での変化をみると子どもの数が一人の場合のみ有意差がみられ、16.39 点から 18.50 点に上昇している。

### 5. 考察

プログラムの実施前後で父親の育児行動に変化が見られることから一定の効果があると考えられる。その要因としてプログラムが夫婦間のコミュニケーションを促すきっかけとなったこと、そして、自由記述でみられた「子どもの様子を積極的に伝えるようになった」「夫に感謝の言葉をかけるようになった」という母親の行動の変化が大きいと思われる。

もともとあまり育児に取り組まなかった父親が取り組むようになった点からも母親が多く集まる地域子育て支援拠点でこのようなプログラムを実施する意義は大きいと思われる。また、地域子育て支援拠点には一人目の子どもを育てる母親が多く参加していることから一人目の子どもを育てる父親の育児得点が有意に上昇している点も重要である。

しかし、プログラムは一回限りであり、効果の持続を長く期待するのは難しいと思われる。地域子育て支援拠点では、プログラムをあくまで父親の子育てへの関わりを促すきっかけとして行い、次の段階として家族で、夫婦で、父親だけで参加できる多様なプログラムを行うことが求められる。そこで父親の役割の重要性を伝え、父親の関わりを深めながらさらには父親同士のネットワーク作りの機会を提供していくことが重要であると考えられる。